

開成の杜

第85号 ●2011年6月29日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

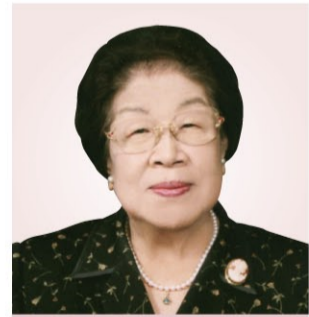
●発行所／学校法人郡山開成学園〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) http://www.koriyama-kgc.ac.jp ●発行人／学園長 関口 修



新緑の学園

(撮影 山口郁生)

「自己との対峙」



名誉学園長 関口 富左

時が過ぎることは、当然のことながら、時の流れによる社会の変化を基とすると、自己の存在はどうなんだろうと想う。そんなことを今頃言うなど、おかしなことでは自分のものにはならない。判りきったことなのに、改めて思うことはな

らである。歳を重ねているということの他に、自己の存在認識を忘れることもある。こんなことを今更改めて記すなど、我ながら恥かしいと同時に、今という時に、自己の存在を認めてなく、他者の思いになりきれないでいるというところらしい。「今、わが年齢を、いかに、努力を重ねて過して

きたかを、自己と向き合いつつ、静かに見つめた」ということに気付く。自分とは、人間は何をなすべきかと考えつつ、自己の存在意義についての認識はなかなか認められないでいる。即ち、そんな思いとは、如何なる心境なのだろうか。この歳をして、改めて気になり、熟慮の時を持つ。自己を「じこ」として対峙し、更なる人生の道を求め、若い人達の力になるべく、己の生涯を捧げると云う結論にたどり着く。

「自己の歳は？」他人様に教えられないと自己の存在を自己として認められないでいるが、芒洋と時を過ごしながらも、自然を凝視^{みつめ}して師とすることで、若い皆さんが秘めている大いなる可能性に大きな声援を送りたい。

大震災と原子力事故への対応

学校法人郡山開成学園 学園長

関口 修



附属高校の卒業式を終え、一週間後には大学と短期大学の卒業式を迎えられると、喜びに満ちた学生がキャンパスに溢れていた。三月十一日午後二時四十六分、マグニチュード九の激しい揺れに怖れを抱きながら避難場所と定めた創学館前に集まりました。

猛烈な吹雪にも見舞われながら学園内全ての部署と連絡網が確保され、学内全員の無事、怪我人無しとの報告に、一瞬の安堵を感じました。学園内全ての校舎には無数のひび割れが出来てしまいました。

一方、市内のあらゆる箇所での被害は学生・生徒・教職員の帰路を阻む事となり、通信手段も遮断され、学内全員の避難場所を確保すると共に、近隣の人々の避難場所も設えるべく、挙学一致で自然に生まれた協力体制は本当に見事な姿でした。

避難所の態勢を整えるべく、市役所に毛布や非常食品を調達に向かう人、少しでも温かい食事をと炊き出しの準備をする人、泣き出しそうな学生や生徒を支援する人、何れの教職員も積極・自発的に懸命の努力をしてくれました。

此の事を後日、避難していた近隣の方が、あのように素晴らしい教職

員としての姿は、自分も長年教員をしてきたが、見たことが無かった。皆さん一人一人に感謝をしたが、今は言葉しかないのがもどかしいとの御礼を戴きました。

教職員が一生懸命、自分の帰路を忘れて御世話をしつつも、折々の会話には、大学・短期大学の卒業式が出来るか否かを按ずる声でしたので、早急に記念講堂の修繕が可能か、建築業者に打診しましたが、回答は材料が手に入らないので、三月十七日までには無理とのこと、残念ながら、卒業式の延期を考えなければなりません。

三月十二日、全ての校舎の修繕計画を建築関係各社に依頼しながらも、学生・生徒・園児教職員全員の安全確認をいたしました。

残念でならなかったことは、二名の学生の尊い命が津波にのみ込まれてしまったことで、皆さんと共に御冥福を祈りたいと思います。

そのような悲しい知らせと前後して、もたらされた情報は、東京電力の原子力発電所の様子が異常とのことでした。

以来、余震と目に見えぬ放射線量に脅え、東北各地の被害状況を考慮し、卒業式、入学式の日程を決定する事でしたが、校舎の補修なしには前に進めないことから、卒業式は取りやめなければなりません。

今年の卒業生の皆さんには、お許しを頂かなければなりません。いつの日か、集まる機会を設けられるようにしたいと願っています。

家族会、同窓会ほか学園関係者の皆様には、種々御心配を戴きました。が、学園はいち早く復旧致しました。それも、六カ年計画で実施してき

た各校舎の耐震化工事が完成しておりましたので、被害の総額は約七億円程度で、早急に復旧することが出来ることになりました。83年館だけは耐震化に該当しない建物でしたので、八月末日までの改修工事となりました。

これらの対応を致しているうちに、年度末にいたり、学園長先生が名誉学園長・名誉学長となられるにつれて、理事会に於いて学長職をも兼務すべく選任されました。

浅学非才ながらも学園の発展に寄与出来ますよう、努めてまいります。

地震、津波、放射性物質、風評被害に負けぬよう、みんなで頑張りましょう。

(学校法人郡山開成学園理事長 郡山女子大学学長 郡山女子大学短期大学部学長 郡山女子大学附属高等学校校長 郡山女子大学附属幼稚園園長)



「心のケアについて」

家政学部食物栄養学科 教授

藤原 建樹

東日本大震災における日本人の秩序だった行動様式は海外メディアが等しく賞賛するところである。甚大な被災にもかかわらず、大声で呪詛することも、泣き叫ぶこともなくひたすら耐えている。静謐を尊ぶ、わが国、精神文化の発露である。国際紙タイムは日本メルトダウンとして

震災特集号を発刊している(三月二十八日号)。その表紙は、軍手に持ったタオルで涙を押さえている老婦人の大写しの横顔である。写真には何の説明もないが、この婦人の深い悲しみは見る人の心をつよく揺さぶる。

しかし、凛としたその佇まいは他者が心の襞に入り込むことを拒んでいる。このような場合、言葉は無力であり、共感を持ちつつ静かに見守って行くという知恵を我々は働かせてきた。

被災地には全国から心のケアに関わる多くの人が馳せ参じ、目覚しい成果をあげてきた。その一方、配

慮を欠いた面談や援助を提供しないアンケートなどにより被災者に精神的な苦痛を与えた事例も少なくならずあった。日本精神神経学会(<http://www.jspn.or.jp/>)は緊急

声明を発し、これにつよく抗議している。心のケアをする際には、継続できる人が行う、恐怖の感情表現を促さない、フォローのないアンケート、被験者に利益をもたらさないアンケートは禁止する、などの幾つかのルールがある。

心のケアはなにも震災に限った話ではない。思春期・青年期には普段から心の健康に格段の配慮が必要である。その場合でもルールの原則は変わらない。カウンセリングが奏功することもある。本学の場合、練達の臨床心理士を相談室に配置している。また各クラスのアドバイザーは学生にきめ細かな対応をしている。このようなセーフティネットの構築は学生諸君の心の健康に大きく寄与している。しかし、なによりも普段から人間関係が重要であることは論を俟たない。なお極度の不眠や抑うつは専門医療の対象であり、早めの受診が必要である。

皆さんに学位記が授与された。 嶽野さんは、本短大家政科食物栄養専攻の准教授を務めている。 嶽野信子さんの論文は、「赤ワインポリフェノール類の醸造特性と抗酸化能に関する研究」。ワインと人間生活の関わりについて、人間守護の立場から総合的に考察を加えたもので、この研究は、人間生活学専攻の博士論文に相応しい内容であると審査員全員から博士(家政学)の授与に相応しいと認定された。

概要は次のとおり。 赤ワインの消費量が比較的多いフランスでは、動物性脂肪摂取量が多

い欧米型食生活であるにもかかわらず、虚血性心疾患の死亡率が低いことから、近年赤ワインに多く含まれているポリフェノールが、生活習慣病の誘発を抑制することが指摘されている。特に、ポリフェノールの一種で植物の赤紫色素成分である「アントシアニン」の健康への効果が期待が寄せられてきた。ワインとは元来、ブドウを原料として発酵した酒を指すが、各地の風土と伝統に応じて長い歴史を持ち、有益なものとして今日まで継承されてきた。このことから、「ワイン」が単なる嗜好飲料としての酒類の位置付けに留まるものではないことを踏まえ、本研究では、ワインと人間生活の関わりについて、宗教的・政治的な歴史的背景および健康への効果・効能の歴史的背景について考察した。また、その健康機能の本体とされるポリフェノール抗酸化活性の超高度測定法を開発した。さらに、ブドウと同様にポリフェノール系色素に富むブルーベリーワインの安定した醸造法を確立するとともに、快適な食卓を目指すためのブルーベリーワインと料理の相性について検討し、人間守護の立場から総合的に考察を加えた。



嶽野信子さんに学位記が授与された。

高校生と楽しく触れ合う オープンキャンパス日程決まる

大学と短大の受験を希望する高校生と保護者のための平成二十三年度オープンキャンパスの日程が決まった。七月十六日(土)、九月十一日(日)に行われる。それぞれが希望する学科の模擬授業に参加、学内の施設を見学、在学生と懇談することで教育内容を具体的に理解してもらうことが目的。

そのため、このオープンキャンパスで

は、よりわかりやすく、楽しく参加してもらおうと、学生と教職員が工夫して開催している。郡山駅から無料のシャトルバスも運行、昼食も準備されている。事前申し込みが必要だが当日も受け付ける。詳しくは入学生務部か大学のホームページで確認。



大学・人間生活学科

杜のなかで

福島原発事故に思う

福島原発事故をめぐって様々な発言が聞かれるなかで、次の二つに注目したい。一つは、この事故は「人間自身」が作り出し、その被害の広がりに社会的、地理的、時間的に限界がない大災害です」という、ドイツの社会学者、ウルリッヒ・ベック氏の発言である(11年、5月13日付朝日新聞)。もう一つは、「アトム(原子力、核)が人類にとつて『手に余る』ものであることを示している」という、湯浅誠「反貧困ネットワーク」事務局長の意見である(11年6月3日付毎日新聞)。「手に余る」とは、原子力の制御不能、放射線量の毒性、判定不能、事故の因果関係立証不能、避難者の職・住を含む生活総体への復帰時期決定不能という、重大な不能状態をいう。

二人に共通する認識は、「制御不能な災害」ということである。そうであれば、それは、科学の進歩そのものに起因する災いである、ということにはならないだろうか。

朝永振一郎博士(1965年ノーベル物理学賞受賞)はすでに、「科学と文明」のなかで、科学が讃美されるものであると同時に、「原罪性」をもつものであることをエピソードを交えて論じている。エピソードの一つとして、ギリシア神話のなかで、プロメテウスが天上から火を盗んで来て、人間に与えたことで、全知全能の神、ゼウスの怒りにふれ、高い山の上の巨岩に鎖でつな

がれ、大きな鷲に肝臓をついばまれて

づけるという、永劫の罰をうけたこと。ふれ、ギリシア時代にすでに、科学あるいは科学する知能、文明のもとともいえる火の使用のなかに、何か罰せられる要素が含まれていると考えられていた、と述べている。

もう一つのエピソードとして、ノーベルの肖像画の片面に、真ん中にペールをかぶって立つ一人の女性に、ナツラ(Natura)自然というラテン語、その横にペールをもちあげて顔をのぞいているもう一人の女性にスキエンチア(Scientia)科学というラテン語が書かれている。ノーベル物理学賞のメダルの絵を取り上げ、この絵は、自然の女神のペールをまくつて素顔を見ようとするのが科学であることを象徴している、と述べている。ペールをまくることは、科学の実験を意味し、素顔を見ることは、自然法則を発見することである。しかし、科学が自然に対して行っていることは、ある意味で自然に対する冒瀆ともいえる、と記している。

科学の進歩とともに、科学の実験は巨大化し、1939年、2人の科学者によって、ウランの核分裂の現象と巨大エネルギーの発生が発見される。そしてこのエネルギーの行方が一方で大きな破壊力をもつ原子爆弾の開発、他方で原子力の平和利用といわれる原子力発電に繋がる。

現代科学が発見した原子力の制御不能という原発事故は、自然の女神のペールを大きな力で強引にまくる、科学の自然に対する冒瀆の結果であるように思われるのである。しかし事故収束の鍵も科学技術以外にはないの

(彌)

特集 研修紀行

大学・短期大学部

大学と短大は、今年も、海外と国内で各学科の特徴を生かした研修旅行を行った。学んだ新しい知識や世界観はこれからの学習に大いに役立つことだろう。

【憧れの街、パリでの海外生活実習】

人間生活学科四年 慶野 いずみ

欧米の生活や文化に触れ、生活全般についてより一層理解を深めることを目的に、四泊六日のパリ海外生活実習を体験してきました。

ベルサイユ宮殿やノートルダム寺院、オペラ座などパリを代表する由緒ある建築物には、歴史の中を生き続け、愛されていることに感動しました。

ルーブル美術館では、素晴らしい芸術作品を鑑賞し、自らの感性を磨くことに繋がりました。また、マーケットや朝市の視察、地下鉄の利用ではパリ市民の日常生活を、高齢者福祉施設ではフランスの高齢者介護について理解を深めることができました。最終日の夜にはディナークルーズを楽しみました。昼間とは違った姿はさらに魅力的で、忘れられない思い出となりました。こうした体験を支援してくださる学園と両親に感謝し、今後に生かしていきたいと思えます。

ら提供する立場にもなれる」という心に響く積極的な言葉を聞き、感銘を受けました。

また、重度身体障害者施設あじさいホームでは、利用者の意見を最大限に生かしており、授業で学んだことのある「利用者主体」の環境を実際に見ることができ、勉強になりました。

この他にも、先端技術館や東京タワー、東京都庁、トヨタメガWEBなど、興味深い研修を行いました。この研修旅行で得たことを今後の就職活動に生かしていこうと思えます。



新宿区立障害者福祉センターにて

【自分の肌でドイツ文化を感じる】

幼児教育学科A組 安藤 花奈

三月一日から五泊七日でドイツへ研修旅行に行き、現地さまざまな施設を訪問し、ドイツの教育の姿勢や方針を学ぶことができました。オイリュトミーも体験しました。また、歴史的な建造物や街並みも見学し、自分の肌で文化を感じました。

ホームステイでは、不安や緊張もありましたが、ホストファミリーの方々はとても温かく迎えてくれました。言葉が違いため壁ができるのではな



エッフェル塔をバックに

【二泊二日の研修を終えて】

家政科福祉情報専攻一年 佐藤 真央

私たちは、二日間、福祉と情報に関する見学研修を行いました。新宿区立障害者福祉センターでは、障害者の方から「地域の中に出ていくことにより、サービスを受ける立場か

ありましたが、通訳の方や添乗員さんのおかげでスムーズに解決することができました。今回の海外研修で、新しい世界観や知識を自分のものにすることができたと思えます。



フランクフルト幼稚園訪問

【研修旅行で学んだこと】

文化学科二年 今村 亮子

私たちは二月二十五日から、四泊五日の関西研修旅行に行ってきました。日本文化の中心である京都・奈良で、これまでの学習を元により、そう文化への理解を深めるために、五日間で二十ヶ所の歴史的価値のある寺社や史跡などを巡りました。

その中で特に私の印象に残ったのが、高松塚古墳や飛鳥寺といった史跡に富んだ明日香村でした。そこは昔ながらの穏やかな田園風景が広がっていて、まるでタイムタイムスリップしたかのように、その土地の歴史を肌で感じる事ができました。石舞台古墳の日本最大級の石室の中は、重々しくも清浄な雰囲気を感じていました。

比叡山延暦寺では僧侶の方から、「個々が思いやりの心をもって一隅を照らす」という比叡山の根本的な教えや「油断大敵」の語源のお話をいただきました。また、三十三間堂では千一体の煌びやかな御本尊を目にし、写真や映像では伝わらない存在感に圧倒されました。

天候は若干崩れがちでしたが、古都を実際に歩き、日本の誇る文化遺産を巡ることができたのは、これからの学習に繋がる貴重な体験でした。

【創造意欲が高まった】

生活芸術科二年 三泊 四日

生活芸術科二年 佐久間 由美

私たち生活芸術科は、まだ寒さの残る二月下旬、研修旅行で日本古来の美しさを持つ京都に行きました。クラスの中には初めての訪問という友人もいて一層楽しみにしていました。

晴天の中、堂々たる寺院を目の前にすると、まるで時間を遡り京都が栄えていた時代にいるかのような感覚に襲われました。京都は福島より暖かく、ほんのりピンクに染まった梅の花が至るところで綻んでいるのがうかがえました。

そんな風情ある景色の中、深い歴史が残る名所を回ることができたのはとても幸運だったと思えます。各々が思い出を写真に収め、あつという間の三泊四日を過ごしました。

最終日には、京都市立美術館を訪れ、京都芸術高等学校の生徒の作品を鑑賞しました。さまざまな作品に触れ、創造意欲が高まり、自分たちも頑張らなくては、と思えるよい機会でした。今回の旅行で得たものを最大限自分の力とし、目標に向かって残り

の学生生活を充実させていきたいと思えます。



石舞台古墳にて



伏見稲荷大社にて

大学院・大学・短期大学部

郡山女子大学大学院第二十回、郡山女子大学第四十六回、郡山女子大学短期大学部第六十二回、短期大学部専攻科第十二回の入学式が五月十二日、建学記念講堂で行われた。東日本大震災の影響で、約一カ月遅れの挙行となった。式では冒頭、今回の大震災の犠牲者に黙祷を捧げた。

大学院修士課程二名、博士(後期)課程一名、大学九十五名、短期大学部二百八十一名、同専攻科六名の計三百八十六名が、一人ひとり氏名を呼ばれ自席に立ち関口修学長

から入学を許可された。関口修学長は「健康に留意し、力を合わせこの困難を克服して、二十一世紀を担う人材に育ってほしい」と告辞した。

来賓の河村潤子文部科学省高等教育局長、熊谷和年郡山市議会議員、鈴木清郡山開成学園家族会長、名倉美恵子郡山女子大学同窓会長らが挨拶し、入学を祝った。続いて附属高校三年の影山綾香さん、附属幼稚園の工藤真由ちゃんと太田周吾ちゃんがお祝いの言葉を述べた。さらに在学生を代表して短

大食物栄養専攻の佐藤津美さんが歓迎の言葉を述べた。これに対して新入生を代表して大学院の澁谷陽海さんと短大幼児教育学科の青山智未さんが「学則を守り、研究や運動に励みます」と誓いの言葉を述べた。

私が郡山女子大学を志願した理由

わが国では、少子高齢化の流れを受け、住宅におけるバリアフリー化が急速に進んでいます。バリアフリー化は介護負担の軽減や事故の予防等に結びつきますが、近年では自立生活が可能な高齢者の住みにも導入される傾向にあります。私はバリアフリーの効果を認識しながらも、過度な導入は高齢者の保有能力の衰えにつながるのではないかと考えます。そこで、この点に、今後のバリアフリーの方向性について研究したいと思い進学しました。

大学院人間生活学研究所 修士課程 澁谷 陽海

入学



ようこそ開成の杜へ

私が短期大学部を志願した理由

私は、将来、小中学生を対象にした食育活動を行いたいと考えています。この大学は、管理栄養士養成校に指定されており、また、感性の教育に力を入れています。管理栄養士には専門的な知識はもちろんですが、豊かな感性も大切だと考えています。芸術に触れ、感性を磨くとともに、専門的な知識を身に着けていきたいと思っています。大学に進学させてもらった感謝の気持ちを忘れず、これからの大学生活を充実したものにしていきたいと思っています。

短期大学部 生活芸術科 小針 かなえ

私が附属高等学校を志願した理由

私たちは人間は遠く昔から美しいと感じる心や想いを、生活を通して自然から享受されたり創造してきたりしました。私はそんな先人の生活と美術の知識や当時の情景を深く学び、現代の生活と美術の関係を見直し、美術という分野をより多くの人が身近に感じられる仕事をしたいと考え、生活芸術科を志望しました。入学後は学科の特性を活かし、美術の素晴らしさを私自身から発信できるようにすることを目標に日々努力を重ねていきたいと思っています。

附属高等学校 1年3組 草野 千明

私が附属高等学校を志願した理由

私は、小学四年生から吹奏楽に触れ、音楽の素晴らしさや楽しさを知りました。そして現在、音楽療法士になり、人々の心を癒し、励ましてあげたいという思いがあります。そのためにも、附属高校の音楽科で、もっと深くより豊かな音楽を学びたいと考え、志願しました。これからは、技術向上をめざし、心に響く音色を奏でられるように努力して、頑張ります。

附属高等学校 音楽科1年 齊藤 百花

附属高等学校

開成の杜に満開の桜の花びらが舞う四月十六日、建学記念講堂で第五十五回入学式が挙行された。普通科百八名、音楽科四名、美術

科十八名、食物科三十七名、計百六十七名に対し「入学許可」が宣言された。

その後、関口修学長が「感謝の気持ちをお忘れず、三年間、勉学にスポーツに励み、才能を開花させてほしい」と告辞した。

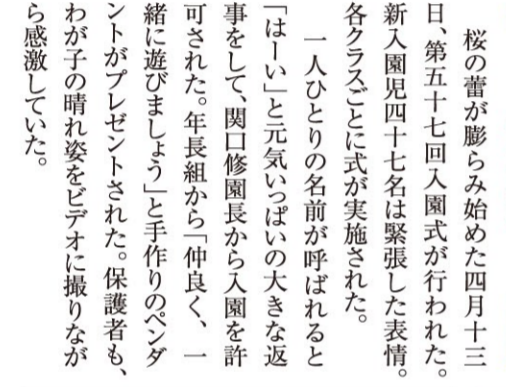
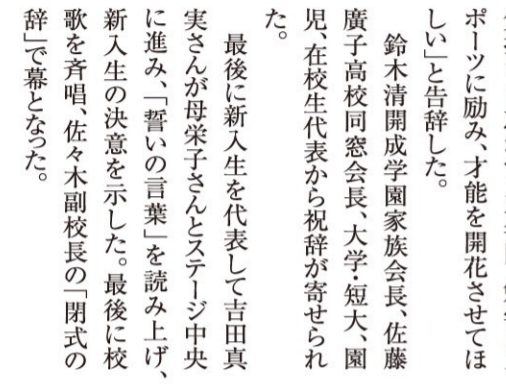
鈴木清開成学園家族会長、佐藤廣子高校同窓会長、大学・短大、園児、在校生代表から祝辞が寄せられた。

最後に新入生を代表して吉田真実さんが母栄子さんとステージ中央に進み、「誓いの言葉」を読み上げ、新入生の決意を示した。最後に校歌を斉唱、佐々木副校長の閉式の辞で幕を閉じた。

附属幼稚園

桜の蕾が膨らみ始めた四月十三日、第五十七回入学式が行われた。新入園児四十七名は緊張した表情、各クラスごとに式が実施された。

一人ひとりの名前が呼ばれると「はい」と元気いっぱい大きな返事をして、関口修園長から入園を許可された。年長組から「仲良く、一緒に遊ぼうよ」と手作りのプレゼントがプレゼントされた。保護者も、わが子の晴れ姿をビデオに撮りながら感激していた。



卒業

蛍の光に送られて

大学院・大学・短期大学部・短期大学部専攻科卒業の皆さんへ

平成二十三年三月十八日に予定されておりました、大学院第十八回、大学第四十二回、短期大学部第六十回、短期大学部専攻科第十回の修了式・卒業式・学位記授与式は、東日本大震災のため中止いたしました。残念ながら晴れの卒業式で皆さんに心からのお祝いを申し上げることができませんでした。どうぞ建学の精神によって培われた教養と専門性を大切に、それぞれの目標に向かって心豊かな人生を歩んでください。なお、学位記・卒業証書等は別途郵送させていただきますことをお伝えいたします。

感謝を忘れず、今後の人生を歩んでほしいと結んだ。

生徒会長の古川ほのかさんが在校生を代表して送辞、卒業生代表の佐藤愛美さんが答辞を述べた。

附属高等学校

第五十二回卒業式が、ひな祭りの三月三日、建学記念講堂で厳粛に行われた。

普通科百六十二名、音楽科八名、美術科十二名、食物科三十名の計二百十二名が式に臨んだ。

担任の呼名により、それぞれの科の総代に卒業証書が関口修学長代理・理事長から手渡された。続いて賞状授与式があり、学園長賞一名、学校長賞九名、皆勤賞補助賞四十一名が表彰された。

関口修学長代理・理事長は「不安定な世の中の現状をしっかりと把握し、将来の目標を定め、附属高校で三年間学んだことや家族への



卒業証書を受け取る総代

附属幼稚園

三月二十七日、附属幼稚園の大ホールで第五十六回卒園式が行われた。寒い日が続く天候が心配されたが、太陽が顔を出す穏やかな一日を迎えることができた。

卒園児三十五人は堂々と入場。関口富左園長から「げんきであかるくて、んまでのびよ」と書かれた卒園証書を一ひとりと元気な声で受け取り、泊まり保育や運動会などの思い出を振り返り、「小学校に行っても、よくみる、よくきく、よくかんがえて一生懸命、勉強や、運動をします」と小学校への希望を抱いて、お友だちや先生方とお別れをした。



お別れのあいさつをする園児たち

卒業研究発表会

大学院人間生活学研究所

大学院修士課程の修士論文発表発表会が二月八日に開催された。研究テーマは次の通り。

- △糖尿病に与える食生活の影響に関する研究△水田生態系に棲息するミジンコ類に対する化学物質の影響について△女子大生の即席麺摂取に関する実態及び意識調査△南会津の伝統食品「水あめ」の食文化ならびに食科学に関する研究

大学・短大は、一月末から二月にかけて各科ごとに発表会を開催。主な研究課題は次の通り。

短大・家政科食物栄養専攻

△幼児の食物アレルギーについて△会津地鶏脂質の脂肪酸組成△大豆もやしの栄養成分△野菜ジュースによる着色食品の嗜好性△動脈硬化の予防と食事△凍み大根の新たな利用法の開発△スポーツ選手の栄養

短大・幼児教育学科

△児童文学におけるうさぎ・何故うさぎは親しまれてきたか△日本におけるわらわらとてんとう虫のマザーグースについて△開発教育の視点から△人形劇「ポントの自動販売機」△コラージュはストレス解消のために役に立つか△自己理解に役立つアセスメントとしての基礎研究△超臨場アイソレイの幼児教育への応用について△リスクをもつ家庭の虐待の現状とケアについて

短大・文化学科

△ツクモ神・モノの妖怪化と仏教△女流画家 上村松園△宮崎アノメに於ける主人公のイメージについて△宗教的アプローチ△坂本龍馬暗殺の謎△東北地方南部における終末期古墳の一樣相△福島県白河市野地久保古墳をもとにして△裏のアメリカ独立戦争史△ジャガイモの奇妙な冒険

大学・人間生活学科

△家庭の安らぎに関する考察△自分の居場所を求めて△スーツの歴史△西洋における男性衣服の変遷から紳士服の現在を考える△個室ユニット型特別養護老人ホームについて△知的障がい児者の一般的な理解と現状から考える特別支援教育の課題△福島県の住宅デザインに関する研究Ⅰ・Ⅱ△生活空間における曲線の有効性について△ガウディ作品「カサ・ミラ」を参考に

大学・食物栄養学科

△幼児期の食物アレルギーと食事の関わりについて△若年女性の薬飲取の実態調査△農作物の流通販売の変化について△エゴマ油の油脂劣化に及ぼす保存条件ならびに竹炭添加の影響△グルテンフリー及びグルテ

短大・人間生活学科

△家庭の安らぎに関する考察△自分の居場所を求めて△スーツの歴史△西洋における男性衣服の変遷から紳士服の現在を考える△個室ユニット型特別養護老人ホームについて△知的障がい児者の一般的な理解と現状から考える特別支援教育の課題△福島県の住宅デザインに関する研究Ⅰ・Ⅱ△生活空間における曲線の有効性について△ガウディ作品「カサ・ミラ」を参考に

短大・文化学科

△ツクモ神・モノの妖怪化と仏教△女流画家 上村松園△宮崎アノメに於ける主人公のイメージについて△宗教的アプローチ△坂本龍馬暗殺の謎△東北地方南部における終末期古墳の一樣相△福島県白河市野地久保古墳をもとにして△裏のアメリカ独立戦争史△ジャガイモの奇妙な冒険

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム

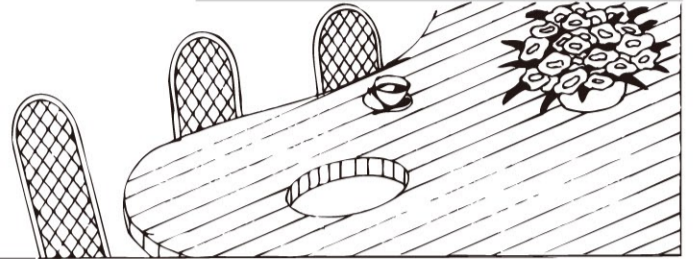


イラスト 白坂 真綺さん (平成22年3月卒業)

パシャリの一枚に思いを

鈴木 正

学生時代に、ある県営の釣り堀センターでアルバイトをして初めて一眼レフカメラを購入した。そのフィルムカメラも今や姿を消しつつある。

老若男女がカメラ付き携帯電話やデジタルカメラ等を持って楽しく写真を撮っている姿を見かける。今のカメラは使い方をマスターすれば誰にでもほとんど失敗なく簡単に写すことができるようになった。写真が「写る」ためにどうするかという技術面での苦労はなくなった。写真が「写る」ということと写真を「写す」ということは大きな違いがある。「写す」行為にはシャッターを切る人の光の捉え方、アングル、背景処理、そして感情表現などを盛り込んだ技術を伴ってくるからである。そして、自分が表現したい写真をどうしたら「写す」ことができるかを考えなければならぬ。

写真を写す、撮るといふ積極的な行動の中に写真の魅力を感じ、写真が外見的な記録に留まることなく、内面的な表現を追求する表現の世界であることを念頭に置き、写真を撮る技法の楽しさだけでなく、風景、そして人の美しさや人間性が出るような写真を撮りたいと考えている。趣味の一つである写真を通して、心が豊かになり、人の心を感動させることができるように努力していききたい。

(附属高等学校教諭)



おかめとミス采女(うねめ祭)

猫神様

影山 奈美

専攻科に入学し、瞬く間に二年生を迎えました。専攻科ではとても貴重な学問的体験をする機会に恵まれたと思います。専攻科の授業では、専門的知識について多方向から幅広く、しかも先生と学生が自由にディスカッションしながら理解を深めています。このような学問的雰囲気の中で私は学位授与機構に提出するレポートの作成を進めています。そのために私は今、猫神様の資料を集めています。猫神というのには猫を神として祀ったもので、石碑に「猫神」や「猫」と刻まれています。何のために祀られたかという、蚕をネズミの害から守るためです。県北の伊達市を中心に隣の宮城県にかけて分布しています。この地域は、近世から養蚕のさかんな所で、しかも貴重な現金収入でした。忙しい時、猫の手も借りたいといいますが、蚕を守るために猫の霊的力に頼ったのでした。猫神の古いものは文化九年(一八一二)まで遡ることができます。

この猫神を突破口にして「養蚕の信仰史」という大きなテーマに挑戦します。苦しい挑戦になるかと思いますが、専攻科の楽しい学問的雰囲気の中でならガンバレルと思います。

(短期大学部専攻科文化学専攻)



筆者

「日々向上」

渡邊 裕理佳

高校入学時に美術科へ進むというのは少々勇気のいることだと思いますが、私の場合、単純な理由で「たくさんの人に自分の絵を見てほしい」というのがきっかけでした。今思うとかなり無謀な企てでした。そんな私でしたが、入学から現在まで、先生方の熱心な指導を受け、今の自分には何が表現できるだろうかということ必死で探す日々を送ってきました。また、部活動では放送部に所属していましたので、大会と作品の締切が重なった時など、鬼気迫る形相になっていたと思います。私は、家に課題を持ち帰ると集中

力が続かないので、毎日のように学校に残り、暗くなるまで制作することを心がけてきました。選挙ポスターはそれでも間に合わず、締切日を過ぎた次の日の朝に提出したという苦しい思い出があります。ですから、全国二等をいただいた時は、驚いたのと同時にもつと余裕を持っていたら良かったと思うことがあります。悔しさが残りました。

(附属高等学校美術科三年)



筆者

私の本棚

谷岡 一郎 著

『社会調査』のウソ
—リサーチ・リテラシーのすすめ—

文藝春秋

郡山女子大学短期大学部

講師 中井 大介

「戦後の少年非行は、ハンバーガーの消費量および体格とともに増加している」。さて、皆さんはこの社会調査の結果を読んで何を感じられるだろうか。これは実際にある学会

「こんにちは、ありがとう、魔法のことで楽しい仲間が、ポポポポーン、誰もがすっかり覚えてしまったテレビから流れる公共広告。このCMを見るたびに、くやしさとうれしさが胸に去来する。十六年前の阪神大震災。生まれ育った故郷神戸の惨状を目の当たりにし、言い知れぬくやしさとむなしさを味わった。そして今また第二の故郷福島で同じ思いを味わっている。人生二度も未曾有の大震災に関わるうとは……。

生活診断室
シリーズ 48
震災に思う
郡山女子大学短期大学部
准教授 **奥秋 和夫**

つたの。朝、家の前で通りがかった小学生が「おはようございます。お元氣ですか」って声をかけてくれたの。食料や水をもらうよりうれしかった。この言葉は当時アナウンサーをしていた身にも、そして今「コミュニケーション」の授業をする身にも忘れてはいけない一言として心に焼きつけている。何げない小さなあいさつ言葉が、時として人の心に大きな勇気の灯をともしす。

今日もまた、かのCMがテレビから何度となく流れてくる。少々耳についたメロディでも、被災者への励ましと被災地復興への願いが込められていると思うと心地よくうれし。

阪神大震災では実家を失った。一人住まいだった母は小さなアパートに移ることを余儀なくされ、ライフラインの復旧も十分でない中で不安な日々を送っていた。そんなある日、母が福島にいる私に電話をしてくてポツリと言った。「きょうね、とてもうれしいことがあ

母の面影を追いかけていた。

で発表されたデータである。本書はこのような「社会調査のウソ」が生み出される背景を、辛辣ではあるが的確に指摘している。

「世の中に蔓延している『社会調査』の過半数はゴミである。」という過激な表現で本書は始まる。先程のハンバーガーの例は「疑似相関」と呼ばれ、時間による変化で偶然同じ傾向を示すものを関連があると誤解した例である。つまり、「戦後の少年非行は、紙オムツの消費量とともに増加……。」と同類なのである。

このようなウソは「無知か悪意」によつて生み出される。ハンバーガーの例は「無知」によるもので悪意はない(ハンバーガー屋はたまつたもの

ではないが)。一方、「悪意」によるウソが問題である。つまり、先に主張があり、それに合わせ恣意的にデータを作る、歪曲して解釈する、などである。この手法は、広告はもちろんテレビや新聞でも当然のように行われている。そのため、著者は「社会調査のウソ」をかぎ分ける「リサーチ・リテラシー」の必要性を説いている。

資本主義ではデータで大衆の不安を煽り、購買意欲を高める手法が度々使われる。怪しい健康食品などはその最たる例であろう。このような時だからこそ、データのウソをかぎ分ける「リサーチ・リテラシー」を高めたものである。

ようこそ 郡山開成学園へ 新任教職員の方々のご紹介

郡山女子大学

【新採用】



小阪 康治 教授
早稲田大学大学院文学研究科
哲学専攻後期課程満期退学
博士(文学)
所属 大学・家政学部人間生
活学科



村田 清 教授
東北大学教育学部教育学科
教育社会学専攻
所属 大学・家政学部人間生
活学科



佐藤 典子 講師
日本女子大学大学院家政学研
究科食物栄養学専攻修士課程
修了
所属 大学・家政学部食物栄
養学科



影山 志保 講師
郡山女子大学大学院人間生活
学研究科博士課程修了。博士
(家政学)
所属 大学・家政学部食物栄
養学科(四月二十五日付)



平野 由香里 助手
郡山女子大学家政学部人間生
活学科卒(平成十八年度から
期限付採用)
所属 大学・家政学部人間生
活学科



鈴木 美由紀 助手
郡山女子大学大学院人間生活
学研究科人間生活学専攻修士
課程修了(平成二十年度から
期限付採用)
所属 大学・家政学部人間生
活学科兼事務局学生生活部



上野 智子 教授
お茶の水女子大学博士課程人
間文化研究科比較文化学専攻
満期退学
所属 短大・幼児教育学科



松谷 ひろ子 講師
郡山女子大学大学院人間生活
学研究科博士課程修了。博士
(家政学)
所属 短大・食物栄養専攻
(四月二十七日付)



京免 徹雄 講師
早稲田大学大学院教育学研究
科博士課程単位取得退学。
所属 短大・幼児教育学科

黒沼 令 講師
福島大学大学院教育学研究科
修了。
所属 短大・生活芸術科



高木 恭子 助手
郡山女子大学家政学部食物栄
養学科卒(平成十九年九月か
ら期限付採用)
所属 短大・食物栄養専攻



齋藤 朋子 助手
郡山女子大学短期大学部幼児
教育学科卒(平成十九年度か
ら期限付採用)
所属 短大・幼児教育学科



安藤 岐恵 職員
郡山女子大学大学院人間生活
学研究科人間生活学専攻修士
課程修了(平成十七年度から
期限付採用)
所属 事務局



湯田 宏恵 職員
郡山女子大学短期大学部幼児
教育学科卒
所属 附属幼稚園事務室



清水 和博 教諭
山梨大学大学院工学研究科博
士前期課程電子情報工学専攻
修了(平成二十年度から期限
付講師)
担当教科 理科



青木 麗菜 教諭
早稲田大学大学院教育学研究
科卒(平成二十年度より期限
付講師)
担当教科 地歴公民



渡部 晋太郎 教諭
東京理科大学理学部数学科卒
(平成二十年度より期限付
講師)
担当教科 数学



高橋 正 教諭
日本体育大学体育学部体育学
科卒(平成二十年度より期限
付講師)
担当教科 保健体育



草野 順子 助手
郡山女子大学短期大学部生活
芸術科卒
所属 短大・生活芸術科



三瓶 久常 講師
文教大学文学部英米語英米文
学科卒
所属 附属高校・英語



草野 順子 助手
郡山女子大学短期大学部生活
芸術科卒
所属 短大・生活芸術科



三瓶 久常 講師
文教大学文学部英米語英米文
学科卒
所属 附属高校・英語

榊枝 あゆ美 講師
洗足学園音楽大学音響部声楽
科卒
所属 附属高校音楽



菅原 久美子 教諭
郡山女子大学短期大学部幼児
教育学科卒
所属 附属幼稚園



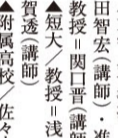
佐藤 圭佑 職員
福島大学人間発達文化学類卒
所属 附属高校・事務局



齊藤 久美 職員
郡山女子大学短期大学部専攻
科文化学専攻修了
所属 放送大学福島学習セン
ター 出向



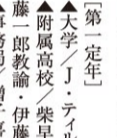
田智宏 講師
准教授 安田純子(講師)・准
教授 関口晋(講師)
▲短大/教授 浅野章(准教授)・准教授 郡司
智透(講師)
▲附属高校/佐々木貞子副校長(教諭)・宗形盛
夫主事(教諭)



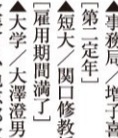
田智宏 講師
准教授 安田純子(講師)・准
教授 関口晋(講師)
▲短大/教授 浅野章(准教授)・准教授 郡司
智透(講師)
▲附属高校/佐々木貞子副校長(教諭)・宗形盛
夫主事(教諭)



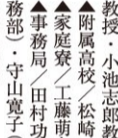
田智宏 講師
准教授 安田純子(講師)・准
教授 関口晋(講師)
▲短大/教授 浅野章(准教授)・准教授 郡司
智透(講師)
▲附属高校/佐々木貞子副校長(教諭)・宗形盛
夫主事(教諭)



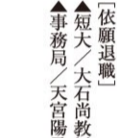
田智宏 講師
准教授 安田純子(講師)・准
教授 関口晋(講師)
▲短大/教授 浅野章(准教授)・准教授 郡司
智透(講師)
▲附属高校/佐々木貞子副校長(教諭)・宗形盛
夫主事(教諭)



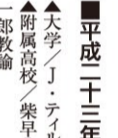
田智宏 講師
准教授 安田純子(講師)・准
教授 関口晋(講師)
▲短大/教授 浅野章(准教授)・准教授 郡司
智透(講師)
▲附属高校/佐々木貞子副校長(教諭)・宗形盛
夫主事(教諭)



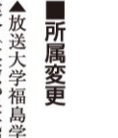
田智宏 講師
准教授 安田純子(講師)・准
教授 関口晋(講師)
▲短大/教授 浅野章(准教授)・准教授 郡司
智透(講師)
▲附属高校/佐々木貞子副校長(教諭)・宗形盛
夫主事(教諭)



田智宏 講師
准教授 安田純子(講師)・准
教授 関口晋(講師)
▲短大/教授 浅野章(准教授)・准教授 郡司
智透(講師)
▲附属高校/佐々木貞子副校長(教諭)・宗形盛
夫主事(教諭)



田智宏 講師
准教授 安田純子(講師)・准
教授 関口晋(講師)
▲短大/教授 浅野章(准教授)・准教授 郡司
智透(講師)
▲附属高校/佐々木貞子副校長(教諭)・宗形盛
夫主事(教諭)



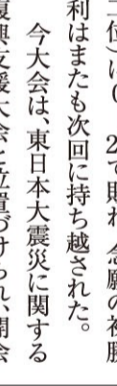
田智宏 講師
准教授 安田純子(講師)・准
教授 関口晋(講師)
▲短大/教授 浅野章(准教授)・准教授 郡司
智透(講師)
▲附属高校/佐々木貞子副校長(教諭)・宗形盛
夫主事(教諭)

NEWS 学園ニュース

社会人の強豪相手に善戦 タッチフットボール日本選手権

第二十回タッチフットボール日本選
手権が五月二十一日、横浜スタジア
ムで開催された。全国から八チーム
が参加。東北代表の本学は、三年生
主体のチームで、一回戦突破に向け
練習を続けてきたが、社会人の壁は
厚く、ヘルメイリー(関西社会人一
位)に12-34で敗れた。また、順位決
定戦でもソングリパス(関東社会人
二位)に0-26で敗れ、念願の初勝
利はまたも次回に持ち越された。
今大会は、東日本大震災に関する
復興支援大会と位置づけられ、開会
式では名誉会長が「郡山女子大の参
加は大変喜ば
しい」と挨拶
した。

協会関係 者や他チーム の方々から多 くの励まし言 葉がかけられ 学生たちにと つては嬉しい ふれあいの場 となった。



大会参加者と記念撮影(横浜スタジアム)

宮崎大輔氏を招き 就職対策特別講演会

ハンドボール日本代表のエースとし
て活躍している宮崎大輔選手を招い
た大学・短期大学の就職対策特別
講演会が十二月十二日、建学記念講
堂で行われた。
学生をはじめ、市内の高校、中学
のハンドボール部員など四百五十人
が参加。宮崎選手は「夢の実現に向
けて」と題して講演。ヨーロッパでの
経験談を披露、「失敗を恐れず、何
事にも挑戦することで何かがかつめ
る」と激励した。
世界レベルの強烈なシュートも披
露。質問コーナーでもいねいに答え
ていた。最後に、生活芸術学科の学
生らが制作した「めざせ ロンド
ン!」と書かれた寄せ書きを渡した。

身近な食を考える 食物栄養学科が市民フォーラム

本学主催の第七回市民フォーラ
ム「身近な食を考える」が三月五日、
芸術館大ホールで開かれ、約八十五
人の学生や市民が参加。
本学の廣井勝教授が「炭の効用を
考えるー竹炭の油脂劣化防止効果
を例に」、藤本健四郎教授が「食用
油脂をめぐる最近の話題」、高崎健
康福祉大学の江口文陽教授は「機能
性を考えた食品開発」をテーマに講
演した。参加者は炭の効用や食品油
脂の適量摂取は健康に欠かせないな
ど、身近な食について勉強した。

白河中央中学校が初優勝 バレーボール大会

第二十二回郡山女子大学附属高
校長杯バレーボール大会が三月五日
(土)に行われた。県中、県南から十
二チームが出場。四ブロックのリーグ
戦を行い、各ブロックの一位のチーム
が決勝トーナメントで戦い、白河中
央中学校が見事初優勝した。結果
は次の通り。
優勝 白河中央中学校
準優勝 岩瀬中学校
第三位 郡山第三中学校
第三位 都路中学校

学生・生徒の活躍

受験生を対象とした実技体験講習
会は七月三十日(土)から八月一日
(月)まで開催。
また、短大・音楽科の受験生を対
象とした技術講習会は八月八日
(月)から十日(水)まで開催する。定
員制なので申し込みは早めどうぞ。

【郡山市まちづくりハローモー賞】
郡山女子大学短期大学部「クリーン
フェスティバル」で環境問題に対する市
民への意識啓発活動が認められたもの
【高校選抜剣道東北大会】
郡山女子大学附属高校校 ベスト8
【平成二十二年文化芸術振興褒
章メダル授与】
団体 郡山女子大学附属高校マー
チングバンド部
個人 渡辺千春(三年) 吟詠剣舞舞
部門

【第十四回東北高校放送コンテスト
福島大会】
◆アナウンス
△優良賞 古川ほか(三年)
◆朗読
△奨励賞 渡辺裕理佳(三年)

【インスタントラーメンオリジナル料
理コンテスト二〇一一年全国大会】
△入選 鈴木美月(二年)
【第二十二回全国高等学校総合文
化祭優秀校東京公演ポスター応募
作品】
△優秀賞 小山美貴(三年)

計報
島貫 光治郎氏
元郡山女子大学教授。二月二十四
日、死去。九十歳。
ご冥福をお祈り申し上げます。

秋月 観曠氏
元郡山女子大学短期大学部副学
長。五月八日、死去。八十九歳。
ご冥福をお祈り申し上げます。

所属変更
▲放送大学福島学習センター事務局次長/鈴木
健介(教務部長代理)
▲経理部主任/高橋一(管財部主任)
▲入学事務部/伊藤和雄(附属高校)
▲総務部総務課/鈴木真実(附属高校)
▲教務部/佐藤浩平(経理部)
▲管財部/平野由香子(総務部総務課)
(四月一日)

平成二十三年度に再雇用された方々
▲大学/J・テイルマント教授
▲附属高校/柴早苗副校長・小藤裕樹主事齋
藤一郎教諭・伊藤和雄教諭
▲事務局/増子喜代子係長
(第二定年)
▲短大/関口晋教授
▲雇用期間満了
▲大学/大澤澄男教授・鈴木里子教授・角野猛
教授・小池志郎教授
▲附属高校/松崎洋子教諭
▲家庭寮/工藤明友助手
▲事務局/田村功部長・鍋山智之次長(入学事
務部)・守山寛子(放送大学福島学習セン
ター) (依願退職)
▲短大/大石高教授
▲事務局/天宮陽子
(三月三十一日)

所属変更
▲放送大学福島学習センター事務局次長/鈴木
健介(教務部長代理)
▲経理部主任/高橋一(管財部主任)
▲入学事務部/伊藤和雄(附属高校)
▲総務部総務課/鈴木真実(附属高校)
▲教務部/佐藤浩平(経理部)
▲管財部/平野由香子(総務部総務課)
(四月一日)

所属変更
▲放送大学福島学習センター事務局次長/鈴木
健介(教務部長代理)
▲経理部主任/高橋一(管財部主任)
▲入学事務部/伊藤和雄(附属高校)
▲総務部総務課/鈴木真実(附属高校)
▲教務部/佐藤浩平(経理部)
▲管財部/平野由香子(総務部総務課)
(四月一日)

所属変更
▲放送大学福島学習センター事務局次長/鈴木
健介(教務部長代理)
▲経理部主任/高橋一(管財部主任)
▲入学事務部/伊藤和雄(附属高校)
▲総務部総務課/鈴木真実(附属高校)
▲教務部/佐藤浩平(経理部)
▲管財部/平野由香子(総務部総務課)
(四月一日)

所属変更
▲放送大学福島学習センター事務局次長/鈴木
健介(教務部長代理)
▲経理部主任/高橋一(管財部主任)
▲入学事務部/伊藤和雄(附属高校)
▲総務部総務課/鈴木真実(附属高校)
▲教務部/佐藤浩平(経理部)
▲管財部/平野由香子(総務部総務課)
(四月一日)

所属変更
▲放送大学福島学習センター事務局次長/鈴木
健介(教務部長代理)
▲経理部主任/高橋一(管財部主任)
▲入学事務部/伊藤和雄(附属高校)
▲総務部総務課/鈴木真実(附属高校)
▲教務部/佐藤浩平(経理部)
▲管財部/平野由香子(総務部総務課)
(四月一日)

短大幼児教育学科

劇とあそびのつどい

本短期大学で学び、保育士や幼稚園教諭をめざす学生が研究成果を発表する第二十七回「劇とあそびのつどい」が二月五日建学記念講堂で行われた。同学科の卒業を控えた二年生約百二十人が中心となって舞台やあそびのコーナーで成果を発表した。

クレイアニメーション、人形劇、リズム劇、リズムダンス、オペレッタなどが次々と繰り広げられ会場の子どもたちを楽しませた。

一方、展示ロビーには、あそびのコーナーも設けられ、一年生が輪投げ、ぬりえゲームなどで一緒に遊んだ。また、来場者を歓迎したハンドベル演奏も好評だった。



学生の手作りの舞台です

OG小林ゆうこさんグラランプリ

神戸ジャズヴォーカルクイーンコンテストで

五月十七日神戸市で開催された「新開地第十二回神戸ジャズヴォーカルコンテスト」で短大・音楽科出身の小林ゆうこさん(旧姓・野崎裕子)が見事グラランプリを獲得し、八月にアメリカ・シアトル市で開かれるジャズライブの出場権を獲得した。

作曲家服部克久さんやジャズピアニスト小曾根実さんら五人が審査。受賞の挨拶の中で「『東日本頑張れ』の文字を見て心が熱くなった。一生懸命歌って、被災地の復興を応援したい」と喜びを母校に報告した。また小林さんは昨年十二月に開催された「浅草JAZZコンテスト」グラランプリ受賞もしている。



見事グラランプリ 小林ゆうこさん

優秀賞と講評者特別賞受賞 マーチングバトン全国大会

第十回マーチング&バトンステージ全国大会が二月二十七日、神奈川県民ホールで開催され、附属高校マーチングバンド部は、優秀賞と優れた団体に贈られる講評者特別賞を受賞した。東北大会で金賞を獲得し、出場権を得た。

大会には全国から五十九団体が出場。二年ぶり二回目の本校は、シルクドソレイユの「ラヌーバ」より三曲を演奏した。



全国大会で頑張ったメンバー

序盤のリード守れず 初戦敗退

一月五日から東京体育館で開催したバレーボールの第六十三回全日本高校選手権(春高バレー)に本県代表として出場した附属高校バレー部は、一回戦で聖カタリナ女(愛媛)と対戦。序盤の大量リードを守れず初戦で敗退した。

第一セットは後藤宗像コンビのスパイクが炸裂して八点のリード。しかし、レシーブが乱れて追いつかれ、最後は七連続失点で20-25。第二セットも元気なく15-25と引き離された。試合後、高橋監督は「会場の雰囲気や、大ききになかなか慣れず、対応

できなかった」と敗因を淡々と話した。また、三年生で唯一出場した高橋主将は「今回の経験を生かして目標だった全国大会、ベスト8をめざしてほしい」と後輩たちに夢を託した。

応援スタンドには選手の保護者やマーチングバンド部、生徒など二百五十人が駆けつけた。「ウルトラマン」や「会津磐梯山」の演奏に合わせて、ステイクパルーンをたたいての大声援を送り、応援では完勝だった。



第一セット 宗像美樹選手のスパイク決まる

新入寮生歓迎会、学園長先生からアイスの差し入れ

新入寮生三十五名(大学十六名、短大十八名・高校生一名)を迎え、五月二十五日芸術館大教室において新入寮生歓迎会が盛大に行われた。

故郷から離れての生活に一抹の淋しさを感じていた新入寮生は、先輩たちの心のこもったメッセージ付きの余興に励まされ、会場は温かい雰囲気になった。

さらに学園長先生からプレゼントされたアイスクリームを美味しくいただき、楽しい歓迎の集いとなった。



歌と踊りの歓迎会

本学所蔵 紙上美術展 64

「緑陰の二人」

青津 清喜(一九二〇-一九九三)

本短大・生活芸術科で三十余年教授として勤務され、平成五年に故人となられた。この年に絵画三点が本学に寄贈された。「緑陰の二人」「室内の裸婦」「雑木林」である。木陰でくつろぐ二人が落ち着いた色調で描かれたこの作品は、家庭寮に展示され、寮生に安らぎを与えている。

青津清喜先生は、一九一〇年福島県河沼郡湯川村生まれ。東京美術学校(現・東京芸術大学)を卒業後、福島大学教育学部の助教授、教授として教壇に立った。



同時に本短大・生活芸術科の講師を兼務。退官後は本学の教授となられ、学生の指導にあたられた。

木もれ陽

米国のある大学教員に「二十歳のときに知っておきたかったこと」という著書がある。その中で、これから社会に出る大学生たちは世の中のために勇気を持って「起業家精神」を持つこと、即ち「異質なことをする確かな能力を身につける必要がある」と語られている。私たちが成長を遂げるとは、この「異質なことをやり続けること」に他ならず、もしこの能力が無くなれば、途端に成長が停滞する。今日が昨日と同じでは、人間も社会も衰退してしまうというのである。

日本にも「二十歳のころ」という著書がある。大学生たちが、多くの方々に二十歳前後の頃を語ってもら

おうとインタビューしたものである。これを企画した大学教員は語る。「二十歳前後とは自分の生き方を発見する時期である。それ故にこそ、いちばん悩み多く、誤りを犯しやすく、自分を過大評価したり過小評価したり、人生の選択を迫られながら選択ができない時期である。しかし、インタビューしてみても、そういう時期をみな通り過ぎてきたのだということも解る。そういう時期なしには、どんな人生も成立しないのである。」と自分の二十歳前後をなんとか通過していくためには、自分とは「異質な人々」との出会いが必要になるといふことである。

本学(他との協調)はこの「異質な人々」と「異質な人々」という範ちゅうと深く関連していると思われる。(均)